

米の基本指針（案）に関する主なデータ等

令和 5 年 1 0 月
農林水産省農産局

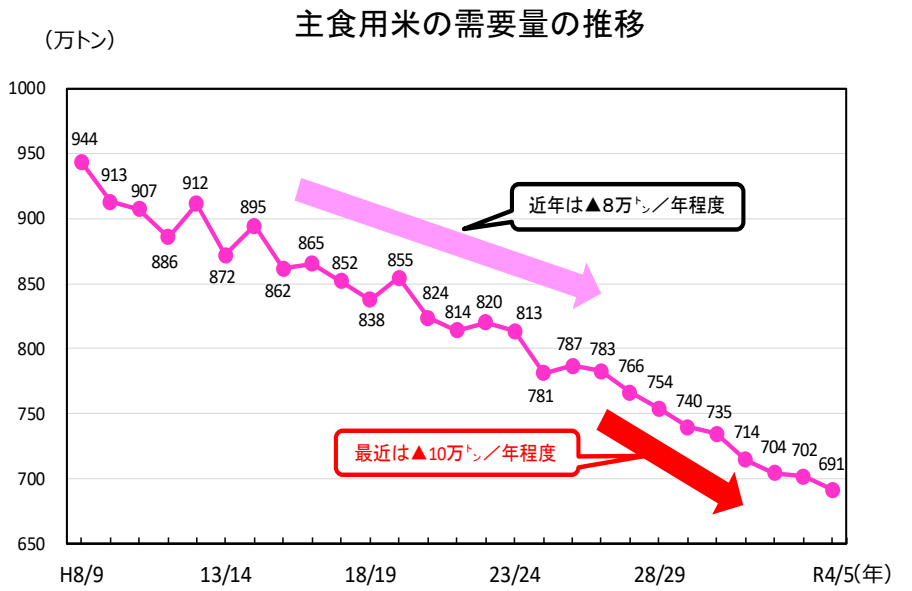
目 次

○ 主食用米等の令和4/5年の需給実績及び令和5/6年の需給見通し（令和5年7月公表 基本指針）	2
○ 令和5年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量	3
○ 高温・渇水の状況と対応について	4
○ 令和5年産の水田における作付け状況（令和5年9月15日時点）	5
○ 米の販売数量及び民間在庫の推移（令和5年8月）	8
○ 販売事業者（規模別）の実需者への販売数量について	9
○ 産地別民間在庫の状況（令和5年8月）	10
○ 相対取引価格の推移（平成25年産～令和5年産）	11
○ 令和5年産米の相対取引価格（令和5年9月の年産平均価格）	12
○ （参考）令和3～5年産米のスポット価格の推移（令和5年10月16日時点）	13
○ 令和4・5年度の保管料等支援のイメージ（「米穀周年供給・需要拡大支援事業」及び「コロナ影響緩和特別対策」）	14
○ コメ・コメ加工品の輸出実績	15
○ 商業用のコメの輸出数量及び輸出金額の推移	16
○ パックご飯・米菓・日本酒の輸出実績の推移	17
○ 政府備蓄米の運営について	18
○ MA米の輸入状況	19
○ TPP11におけるコメの豪州枠の運用	20
○ 水田活用の直接支払交付金等	21
○ （参考）WCS用稲（出穂前・出穂後）と牧草のTDN含量比較	22

主食用米等の令和4/5年の需給実績及び令和5/6年の需給見通し(令和5年7月公表 基本指針)

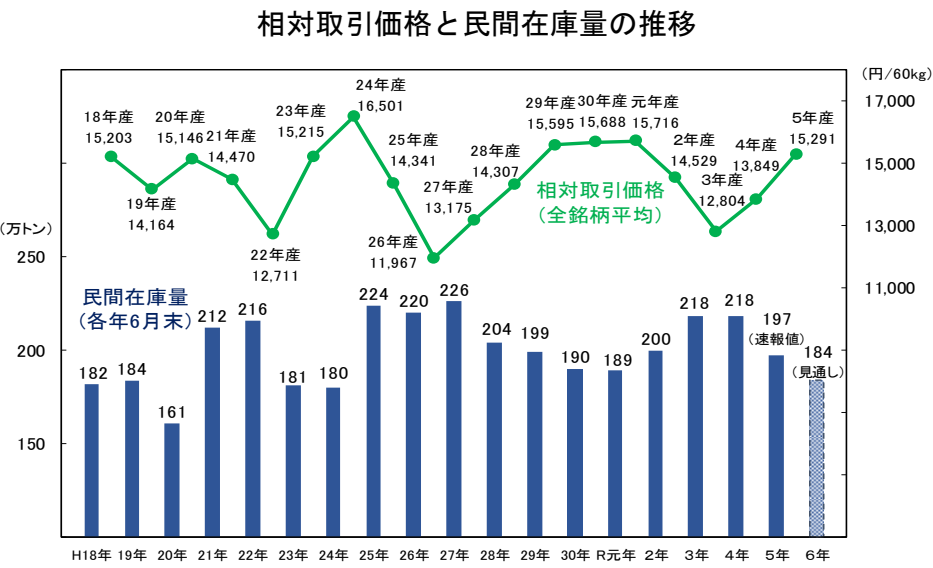
【令和4/5年の主食用米等の需給実績（速報値）】

(単位: 万トン)			令和2年産米のコロナ影響緩和特別対策（特別枠）を除いた場合の見通し	
令和4年6月末民間在庫量	A	218	----->	209 <<9>>
令和4年産主食用米等生産量	B	670		
令和4/5年主食用米等供給量計	C=A+B	888	----->	879 <<9>>
令和4/5年主食用米等需要量	D	691		
令和5年6月末民間在庫量	E=C-D	197	----->	194 <<3>>



【令和5/6年の主食用米等の需給見通し】

(単位: 万トン)			令和2年産米のコロナ影響緩和特別対策（特別枠）を除いた場合の見通し	
令和5年6月末民間在庫量	E	197	----->	194 <<3>>
令和5年産主食用米等生産量	F	669		
令和5/6年主食用米等供給量計	G=E+F	866		
令和5/6年主食用米等需要量	H	681		
令和6年6月末民間在庫量	I=G-H	184		



注1：令和5/6年主食用米等需要量は、過去のデータを用いてトレンドで算出した令和5/6年の1人当たり消費量（推計値）に、令和5年の人口（推計値）を乗じて算出した値であり、今後の価格動向等によっては、変動する可能性がある。

注2：欄外の記載は、コロナ影響緩和特別対策（特別枠）に取り組む令和2年産米を除いた場合の見通しであり、<< >>書きは特別枠に係る取組数量。

注3：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

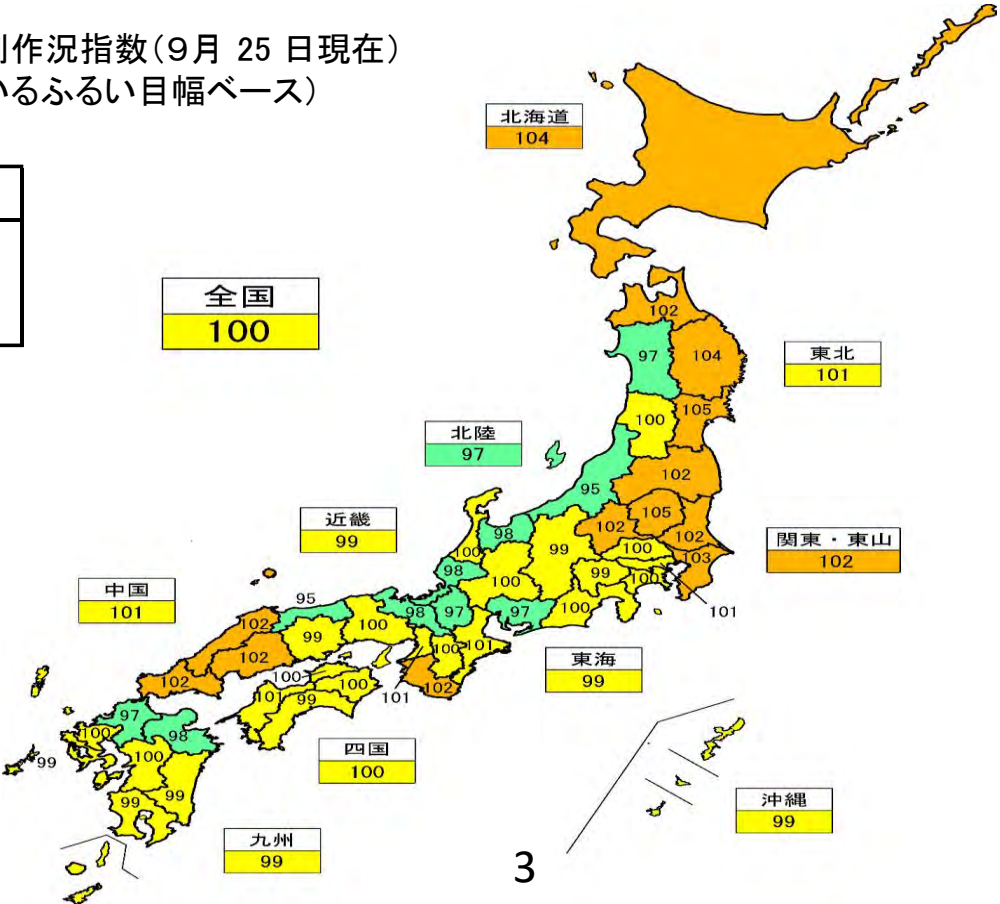
注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（令和4年産は出回りから5年9月までの速報値、令和5年産は5年9月の速報値）の通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

令和5年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量

- 令和5年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は153万1,000ha（前年産に比べ1万4,000ha減少）と見込まれる。うち主食用作付面積は124万2,000ha（前年産に比べ9,000ha減少）と見込まれる。
- 9月25日現在における全国の10a当たり予想収量は534kgと見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は100と見込まれる。これは、田植期以降、全国的に5月下旬から6月上旬にかけて日照不足で推移したものの、その後おおむね高温、多照で推移し天候に恵まれた地域がある一方で、6月から7月にかけての梅雨前線等による大雨や断続的な日照不足、7月から8月にかけての記録的な高温や少雨の影響が見込まれる地域があるためである。
- 主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は662万4,000t（前年産に比べ7万7,000t減少）と見込まれる。

全国農業地域・都道府県別作況指数(9月 25 日現在)
(農家等が使用しているふるい目幅ベース)

作 柄 の 良 否 (作 況 指 数)	
	やや良 (105 ~ 102)
	平年並み (101 ~ 99)
	やや不良 (98 ~ 95)



高温・渇水の状況と対応について

- 令和5年は、梅雨明け以降、北・東日本を中心に記録的な高温で推移。
- このため、出穂期以降の高温による白未熟粒の発生などが懸念された各県においては、品質低下を防ぐための追肥や水管理・適期収穫等の対応を強化。加えて、一部地域では少雨による渇水のため、番水(※)や消雪用井戸の活用等も実施。
- 地球温暖化に伴い高温傾向が続くことが見込まれることから、高温耐性品種の拡大を進める必要。

※番水：用水の受益地区をいくつかに分け、区分した地区ごと、または圃場ごとに順番と時間を決めて、数日ごとに配水する方法。

【令和5年産米の農産物検査の状況】

- ・8月末時点(検査の進捗約6%)での1等比率は全国で68.9%(前年同期68.0%)
- ・例年であれば、検査が本格化する9月以降、1等比率は上昇していくが、本年は高温による白未熟粒等の発生により例年より低くなる見込み



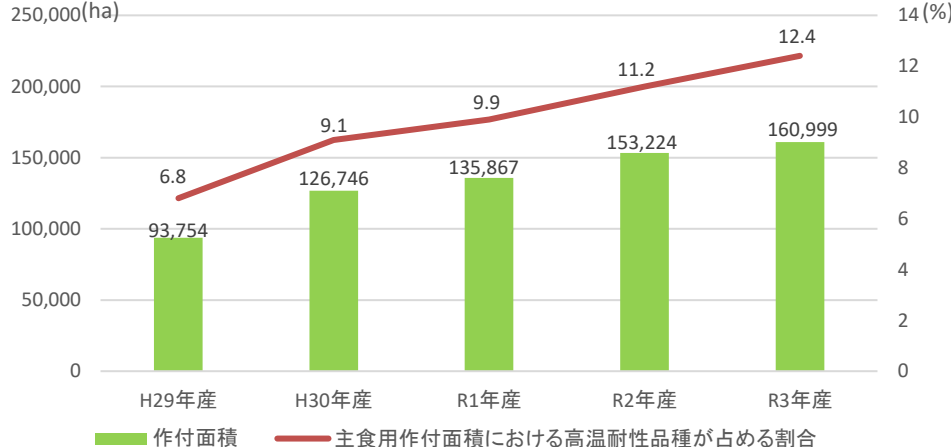
【高温・渇水への対策】

- ・高温耐性品種の導入
- ・土づくり、追肥、水管理、適期収穫等の高温対策技術の実施
- ・番水、消雪用井戸の活用、排水の反復利用等の渇水対策技術の実施

<産地の高温による等級低下への対応>

- ・JA概算金について、「コシヒカリ」3等米で追加払い(JA全農にいがた)
- ・1～3等の食べ比べの実施により食味が変わらないことのPR(魚沼米対策協議会)

○高温耐性品種の作付状況



品種名	作付面積 (令和3年産)	作付けの多い 上位3都道府県	品種名	作付面積 (令和3年産)	作付けの多い 上位3都道府県
きぬむすめ	22,432ha	島根、岡山、鳥取	ふさおとめ	5,900ha	千葉
こしいぶき	20,100ha	新潟	さがびより	5,380ha	佐賀
つや姫	17,101ha	山形、宮城、島根	ゆきん子舞	5,300ha	新潟
ふさこがね	11,800ha	千葉	てんたかく	3,900ha	富山
とちぎの星	9,400ha	栃木	雪若丸	3,800ha	山形
あきさかり	8,930ha	広島、徳島、福井	みずかがみ	3,310ha	滋賀
にこまる	7,383ha	長崎、愛媛、岡山	新之助	3,300ha	新潟
影のきずな	6,600ha	埼玉	その他	19,933ha	
元気つくし	6,430ha	福岡	計	160,999ha	

出典：農林水産省「地球温暖化影響調査レポート」
※1 高温耐性品種とは、高温にあっても玄米品質や収量が低下しにくい品種で、地球温暖化による影響に適応することを目的として導入された面積について、都道府県から報告があったものを取りまとめたもの。
※2 作付面積には推計値も含まれる。

令和5年産の水田における作付状況(令和5年9月15日時点)①

- ・ 全国の主食用米の作付面積については、前年実績（125.1万ha）から0.9万ha減少（▲0.7%）し、124.2万haとなった。
- ・ また、戦略作物等の作付面積については、新市場開拓用米（輸出用米等）、WCS用稲（稲発酵粗飼料用稲）が前年より増加した。

【主食用米及び戦略作物等の作付状況】

	主食用米	戦略作物等									備蓄米
		加工用米	新規需要米				麦	大 豆	その他	戦略作物等 合計面積	
			新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 〔稲発酵 粗飼料用稲〕					
H29年産	137.0	5.2	0.1	0.5	9.2	4.3	9.8	9.0	10.2	48.3	3.5
H30年産	138.6	5.1	0.4	0.5	8.0	4.3	9.7	8.8	10.2	47.0	2.2
R 元 年 産	137.9	4.7	0.4	0.5	7.3	4.2	9.7	8.6	10.2	45.6	3.3
R 2 年 産	136.6	4.5	0.6	0.6	7.1	4.3	9.8	8.5	10.2	45.6	3.7
R 3 年 産	130.3	4.8	0.7	0.8	11.6	4.4	10.2	8.5	10.2	51.2	3.6
R 4 年 産	125.1	5.0	0.7	0.8	14.2	4.8	10.6	8.9	9.9	54.9	3.6
R 5 年 産	124.2	4.9	0.9	0.8	13.4	5.3	10.3	8.7	7.9	52.2	3.5

注1：加工用米及び新規需要米（米粉用米、飼料用米、WCS用稲、新市場開拓用米）は取組計画の認定面積。
注2：備蓄米は、地域農業再生協議会が把握した面積。
注3：麦、大豆、その他（飼料作物、そば、なたね）は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
※R5年産の麦、大豆及びその他については畑地化面積を含まない。

令和5年産の水田における作付状況(令和5年9月15日時点)②

都道府県	主食用米			戦略作物等											(ha)
				加工用米	新規需要米					麦	大豆	飼料作物	そば	なたね	備蓄米
	①	前年産 (4年産) ②	【参考】 増 減 ①－②		新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 〔稲発酵 粗飼料用稲〕	その他						
全国計	124.2万	125.1万	▲ 0.9万	48,797	9,091	7,587	133,925	53,055	71	103,449	87,398	53,224	24,708	643	35,359
北海道	82,200	82,500	▲ 300	6,920	1,974	143	6,788	1,594	－	33,236	17,609	10,436	6,038	408	2,089
青 森	33,800	33,900	▲ 100	787	321	12	7,930	788	－	550	4,769	3,260	1,010	22	5,661
岩 手	42,800	43,700	▲ 900	1,283	417	30	5,739	2,396	1	3,263	4,018	5,999	633	16	663
宮 城	57,200	57,000	200	626	894	103	9,801	2,757	1	2,185	9,472	5,162	434	0	2,144
秋 田	69,900	69,100	800	8,264	500	329	4,265	1,235	2	181	8,683	1,933	3,045	0	3,955
山 形	52,400	52,700	▲ 300	4,516	440	112	5,138	1,239	4	72	4,645	2,359	4,274	1	3,484
福 島	53,100	51,900	1,200	448	142	12	11,722	1,079	1	333	907	1,598	1,500	84	4,753
茨 城	57,800	58,300	▲ 500	947	762	55	13,886	653	3	4,013	770	491	311	1	217
栃 木	47,200	46,100	1,100	1,513	70	1,418	15,069	2,177	4	7,278	414	2,907	1,196	6	1,149
群 馬	12,400	12,400	0	1,389	0	168	1,661	621	－	2,184	118	172	32	0	－
埼 玉	27,500	27,400	100	144	52	769	3,605	124	－	1,877	381	154	50	6	43
千 葉	45,800	45,500	300	1,672	35	135	10,154	1,316	－	440	262	312	2	1	122
東 京	111	115	▲ 4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
神奈川	2,850	2,880	▲ 30	－	－	－	13	2	－	4	6	3	0	－	－
新 潟	100,600	99,900	700	7,093	1,586	1,784	4,032	533	1	189	3,995	294	834	－	4,559
富 山	31,200	31,300	▲ 100	1,220	342	266	2,096	480	－	2,834	4,165	321	250	22	2,202
石 川	20,800	20,700	100	481	65	371	1,131	127	－	1,198	981	27	141	－	1,629
福 井	21,500	21,600	▲ 100	322	132	213	1,976	160	－	5,210	76	43	464	－	1,218
山 梨	4,660	4,690	▲ 30	62	－	29	21	18	－	62	99	23	103	0	－
長 野	29,300	29,800	▲ 500	733	245	24	429	265	－	2,542	670	587	2,192	0	257
岐 阜	19,700	20,000	▲ 300	741	78	65	3,496	303	－	3,689	359	521	259	6	94
静 岡	15,000	15,000	0	105	1	8	1,011	330	－	244	38	40	26	－	4
愛 知	24,700	25,200	▲ 500	573	44	278	2,040	182	－	5,646	70	133	7	11	176
三 重	24,900	25,200	▲ 300	168	54	95	2,426	303	－	7,050	188	169	19	9	53

※1 主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米面積。

※2 加工用米及び新規需要米は取組計画の認定面積で、備蓄米は地域農業再生協議会が把握した面積。

※3 麦、大豆、飼料作物、そば、なたねは地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。

令和5年産の水田における作付状況(令和5年9月15日時点)③

都道府県	主食用米			戦略作物等											(ha) 備蓄米
				加工用米	新規需要米					麦	大豆	飼料作物	そば	なたね	
	前年産 (4年産) ②	増減 ①－②	新市場 開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米	飼料用米	〔WCS用稲 稲発酵 粗飼料用稲〕	その他							
滋賀	27,000 ①	27,700 ②	▲ 700 ①－②	608	205	58	2,033	310	－	8,222	591	158	110	11	282
京都	13,200	13,400	▲ 200	551	25	10	133	158	－	290	266	47	134	－	－
大阪	4,430	4,540	▲ 110	0	－	5	6	4	－	2	8	1	－	－	－
兵庫	32,500	32,800	▲ 300	674	185	48	819	972	6	1,931	1,655	783	117	12	－
奈良	8,200	8,350	▲ 150	19	－	36	50	43	－	68	22	5	1	0	－
和歌山	5,780	5,980	▲ 200	－	－	1	3	4	－	4	11	3	2	－	－
鳥取	11,700	12,000	▲ 300	25	33	0	821	392	0	68	619	845	330	1	79
島根	15,900	16,100	▲ 200	252	2	7	804	745	1	281	614	457	299	4	26
岡山	26,900	27,100	▲ 200	295	189	120	1,824	475	－	1,269	1,114	902	128	1	152
広島	20,500	21,100	▲ 600	351	44	96	443	708	0	326	228	928	252	0	10
山口	16,000	16,600	▲ 600	976	86	43	1,108	410	0	711	816	864	43	1	－
徳島	9,480	9,640	▲ 160	20	40	11	1,007	247	－	55	7	99	2	－	198
香川	10,100	10,800	▲ 700	48	28	7	195	269	－	1,322	39	210	9	1	－
愛媛	12,800	13,000	▲ 200	34	－	6	344	217	－	430	313	241	2	－	－
高知	10,200	10,600	▲ 400	84	－	18	1,135	321	－	5	54	110	0	－	2
福岡	32,300	32,800	▲ 500	224	12	322	2,475	2,068	－	1,138	7,753	448	43	0	11
佐賀	21,700	22,300	▲ 600	406	8	19	829	2,246	－	1,411	6,235	428	12	2	42
長崎	10,000	10,400	▲ 400	6	10	4	117	1,549	1	76	298	1,825	34	2	－
熊本	28,900	30,200	▲ 1,300	672	41	309	1,646	9,167	24	793	2,236	1,891	178	12	66
大分	18,100	18,800	▲ 700	148	2	13	1,932	2,758	－	678	1,310	935	89	2	19
宮崎	12,700	13,400	▲ 700	1,978	22	22	887	7,207	23	17	206	3,105	62	－	－
鹿児島	15,800	16,600	▲ 800	1,389	1	12	880	4,081	1	75	310	1,975	40	2	－
沖縄	545	604	▲ 59	30	－	2	3	22	－	－	－	20	－	－	－

※1 主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米面積。

※2 加工用米及び新規需要米は取組計画の認定面積で、備蓄米は地域農業再生協議会が把握した面積。

※R5年産の麦、大豆、飼料作物、そば及びなたねについては畑地化面積を含まない。

※3 麦、大豆、飼料作物、そば、なたねは地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。

米の販売数量及び民間在庫の推移(令和5年8月)

- 主食用米の需要が1人当たりの消費量や人口減少等の影響により毎年約10万ト(約1.4%)程度減少すると見込まれる中、直近1年間(令和4年1月~12月)の対前年比は、小売事業者向けで▲2%、中食・外食事業者向けは+4%となっており、販売数量の計では+1%となっている。
- 令和5年8月末現在の全国の民間在庫は、出荷・販売段階の計で対前年同月比▲18万トンの104万トンとなっており、出荷段階は対前年同月比▲19万トンの78万トン、販売段階は対前年同月比+2万トンの26万トン

【米穀販売事業者における販売数量の動向(前年同月比)】

	4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4年1月 ~12月計	5年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
小売事業者向け	97%	95%	99%	99%	97%	100%	96%	98%	97%	98%	100%	102%	98%	100%	101%	98%	101%	107%	100%	102%	104%
(※令和元年との比較)	(105%)	(102%)	(103%)	(100%)	(101%)	(102%)	(98%)	(104%)	(98%)	(97%)	(99%)	(104%)	(101%)	(104%)	(103%)	(102%)	(101%)	(108%)	(101%)	(99%)	(107%)
中食・外食事業者等向け	105%	101%	101%	103%	106%	104%	101%	109%	109%	104%	100%	100%	104%	103%	107%	103%	102%	106%	104%	107%	106%
(※令和元年との比較)	(90%)	(88%)	(92%)	(94%)	(93%)	(96%)	(92%)	(93%)	(98%)	(95%)	(94%)	(96%)	(94%)	(93%)	(94%)	(94%)	(95%)	(99%)	(99%)	(97%)	(97%)
販売数量計	101%	98%	100%	101%	101%	102%	98%	103%	102%	101%	100%	101%	101%	101%	104%	100%	101%	107%	102%	104%	105%
(※令和元年との比較)	(97%)	(95%)	(98%)	(97%)	(97%)	(99%)	(95%)	(98%)	(98%)	(96%)	(97%)	(100%)	(98%)	(99%)	(99%)	(98%)	(98%)	(104%)	(101%)	(98%)	(102%)

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1:報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000ト以上の販売事業者(年間取扱数量約150万ト(令和4年産主食用米等の生産量670万トの約2割))である。
2:上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。
3:速報値であるため、公表後の数値修正が生じる場合がある。
4:令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、各月ごとの消費動向に大きな変動が生じていることから、参考として令和元年(4月までは平成31年)の同月との比較をした値を記載。

【購入数量の推移(家計調査)】

		4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4年1月 ~12月計	(単位:Kg、%)							
米	購入数量	3.95	4.14	4.65	4.54	4.38	4.28	4.35	4.35	6.03	7.24	4.59	4.85	57.38	3.72	4.06	4.25	4.51	4.45	4.23	4.39	4.44
	前年比	100.8%	100.5%	93.2%	94.4%	89.8%	90.5%	100.7%	85.5%	96.3%	97.6%	89.6%	92.9%	94.4%	94.2%	98.1%	91.4%	99.3%	101.6%	98.8%	100.9%	102.1%
パン	前年比	93.9%	95.0%	101.3%	97.7%	102.4%	97.8%	99.5%	97.3%	98.1%	97.7%	100.1%	97.1%	98.3%	96.9%	102.8%	93.5%	99.1%	95.2%	100.2%	93.0%	95.7%
	前年比	93.5%	111.1%	104.0%	95.8%	88.2%	93.9%	99.7%	91.3%	100.3%	102.1%	97.8%	102.7%	98.2%	98.0%	87.3%	90.7%	93.1%	95.8%	95.2%	94.1%	101.0%

資料:総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯

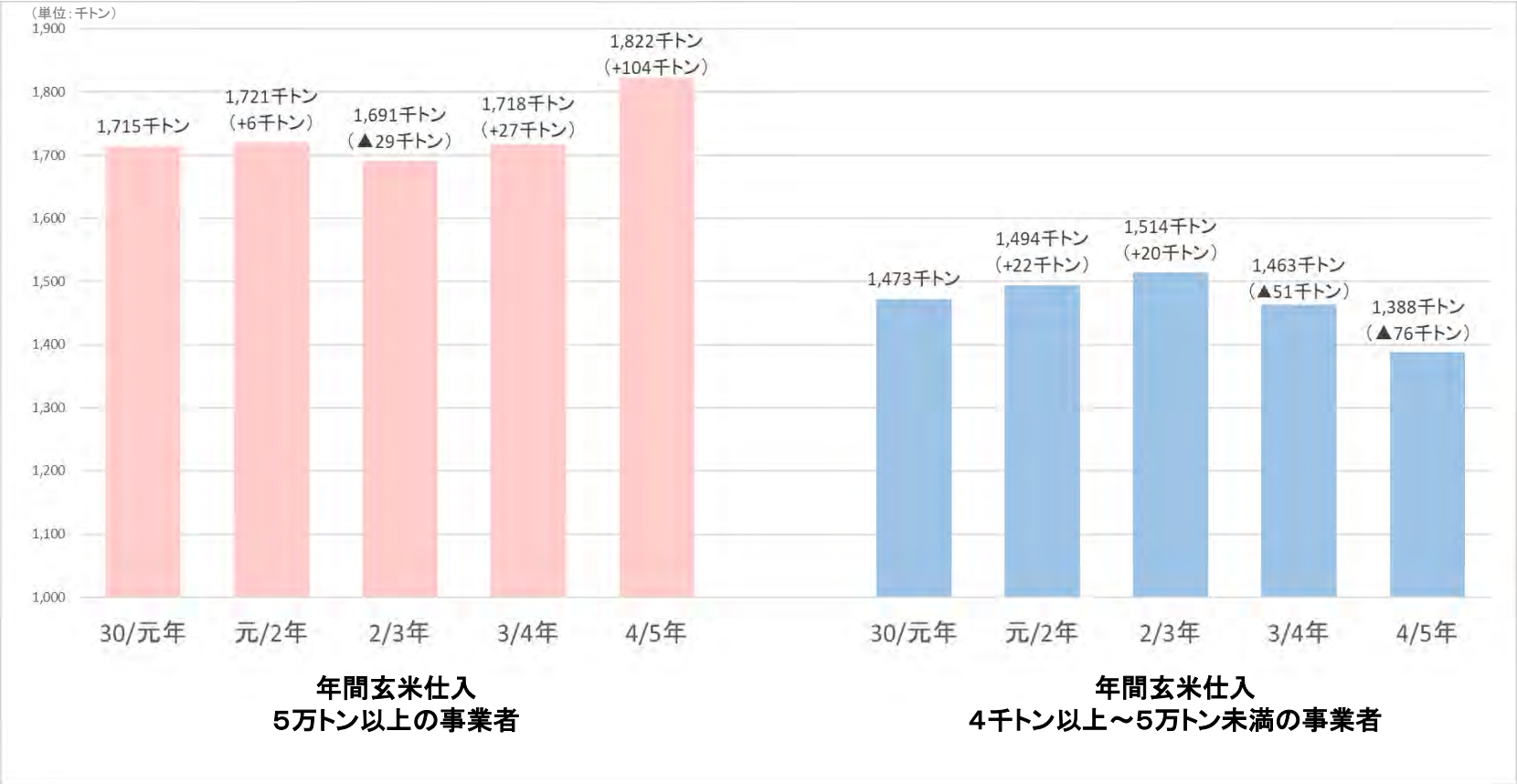
【民間在庫量の推移(出荷+販売段階)】

		当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
4 / 5 年	出荷+販売段階	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153
	出荷段階	116	98	166	262	277	276	259	236	204	176	149	121
	販売段階	26	25	33	50	52	52	47	44	46	43	36	33
5 / 6 年	出荷+販売段階	123	104										
	対前年差	▲20	▲18										
	出荷段階	95	78										
	対前年差	▲21	▲19										
	販売段階	27	26										
	対前年差	+1	+2										

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1:水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米を含む。)の月末在庫量(玄米換算)の値である。
2:報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の玄米仕入量が500トン以上)、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)である。
3:期間については、5/6年であれば、令和5年7月~6月である。

販売事業者(規模別)の実需者への販売数量について

【販売事業者(規模別)の販売数量の推移】



(参考)販売事業者(規模別)の調査対象業者数推移

	30/元	元/2	2/3年	3/4年	4/5年
玄米仕入数量5万トン以上の事業者	31業者	29業者 (▲2業者)	29業者 (+0業者)	29業者 (+0業者)	30業者 (+1業者)
玄米仕入数量4千トン以上～5万トン未満の事業者	216業者	218業者 (+2業者)	215業者 (▲3業者)	210業者 (▲5業者)	204業者 (▲6業者)

資料: 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1: 販売数量は、在庫数量等に関する調査におけるとう精払出数量(各年7月～翌年6月まで)を基に算出。

注2: 販売数量は、玄米ベース。

産地別民間在庫の状況(令和5年8月)

(単位:千玄米トン)

	4年 7月 ① (千玄米トン)	4年 8月 ② (千玄米トン)	5年 7月 ③ (千玄米トン)	対前年 同月差 ④=③-① (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑤=④/① (%)	5年 8月 ⑥ (千玄米トン)	対前年 同月差 ⑦=⑥-② (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑧=⑦/② (%)
北海道	158.7	125.1	126.6	▲ 32.2	▲ 20.3%	91.0	▲ 34.1	▲ 27.3%
青森	63.7	48.9	62.5	▲ 1.2	▲ 1.9%	46.6	▲ 2.3	▲ 4.7%
岩手	80.5	66.5	62.0	▲ 18.5	▲ 23.0%	46.2	▲ 20.3	▲ 30.5%
宮城	112.7	92.5	85.5	▲ 27.2	▲ 24.1%	69.7	▲ 22.8	▲ 24.7%
秋田	108.2	79.7	73.3	▲ 34.9	▲ 32.3%	48.8	▲ 30.9	▲ 38.8%
山形	92.2	70.8	79.4	▲ 12.9	▲ 14.0%	61.0	▲ 9.8	▲ 13.8%
福島	81.0	63.6	73.5	▲ 7.4	▲ 9.2%	55.9	▲ 7.7	▲ 12.1%
茨城	48.2	54.8	46.3	▲ 2.0	▲ 4.1%	54.8	+ 0.0	+ 0.1%
栃木	100.2	82.8	73.1	▲ 27.2	▲ 27.1%	58.2	▲ 24.6	▲ 29.7%
群馬	10.9	10.7	11.4	+ 0.5	+ 4.7%	9.0	▲ 1.7	▲ 15.8%
埼玉	16.5	14.2	16.4	▲ 0.1	▲ 0.5%	13.2	▲ 1.0	▲ 6.9%
千葉	21.4	48.6	13.4	▲ 8.0	▲ 37.4%	51.6	+ 3.0	+ 6.2%
東京	0.0	0.0	0.0	+ 0.0	-	0.0	+ 0.0	-
神奈川	0.7	0.5	0.7	+ 0.1	+ 7.3%	0.5	+ 0.0	▲ 5.1%
山梨	1.7	1.3	2.2	+ 0.5	+ 30.0%	1.6	+ 0.3	+ 26.5%
長野	32.6	26.2	32.3	▲ 0.3	▲ 0.8%	27.0	+ 0.7	+ 2.9%
静岡	4.0	6.0	4.2	+ 0.2	+ 4.5%	6.8	+ 0.8	+ 12.7%
新潟	81.7	55.1	88.0	+ 6.4	+ 7.8%	65.0	+ 9.9	+ 18.0%
富山	33.1	27.0	33.9	+ 0.8	+ 2.3%	28.6	+ 1.6	+ 5.9%
石川	32.2	29.5	25.3	▲ 7.0	▲ 21.6%	25.3	▲ 4.2	▲ 14.2%
福井	22.0	24.0	16.2	▲ 5.8	▲ 26.4%	20.4	▲ 3.6	▲ 15.1%
岐阜	15.1	13.5	17.0	+ 1.9	+ 12.3%	15.4	+ 1.9	+ 14.2%
愛知	14.0	12.8	12.5	▲ 1.5	▲ 11.0%	11.3	▲ 1.5	▲ 11.8%
三重	11.0	16.9	8.0	▲ 3.0	▲ 27.1%	15.8	▲ 1.1	▲ 6.5%

	4年 7月 ① (千玄米トン)	4年 8月 ② (千玄米トン)	5年 7月 ③ (千玄米トン)	対前年 同月差 ④=③-① (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑤=④/① (%)	5年 8月 ⑥ (千玄米トン)	対前年 同月差 ⑦=⑥-② (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑧=⑦/② (%)
滋賀	26.4	21.9	19.7	▲ 6.6	▲ 25.2%	16.8	▲ 5.1	▲ 23.3%
京都	3.5	2.2	4.0	+ 0.5	+ 15.9%	2.4	+ 0.1	+ 5.1%
大阪	0.6	0.5	0.8	+ 0.2	+ 39.4%	0.6	+ 0.2	+ 34.0%
兵庫	19.8	15.4	18.2	▲ 1.6	▲ 7.9%	14.2	▲ 1.2	▲ 7.7%
奈良	4.4	3.6	5.8	+ 1.4	+ 31.4%	4.7	+ 1.2	+ 33.3%
和歌山	0.8	0.7	1.3	+ 0.5	+ 69.1%	1.1	+ 0.4	+ 50.3%
鳥取	14.0	11.0	9.6	▲ 4.4	▲ 31.4%	6.3	▲ 4.7	▲ 42.7%
島根	11.8	9.4	11.6	▲ 0.3	▲ 2.2%	9.1	▲ 0.3	▲ 2.9%
岡山	20.7	14.0	18.2	▲ 2.5	▲ 12.1%	13.1	▲ 0.9	▲ 6.7%
広島	17.6	14.3	14.2	▲ 3.3	▲ 19.0%	10.2	▲ 4.1	▲ 28.7%
山口	16.6	14.8	18.0	+ 1.4	+ 8.5%	14.5	▲ 0.3	▲ 1.9%
徳島	2.8	10.1	1.8	▲ 1.0	▲ 35.7%	7.8	▲ 2.4	▲ 23.2%
香川	8.6	6.9	6.3	▲ 2.4	▲ 27.6%	4.1	▲ 2.8	▲ 41.0%
愛媛	5.0	6.4	7.2	+ 2.2	+ 43.1%	7.4	+ 1.0	+ 15.7%
高知	3.6	10.7	3.4	▲ 0.3	▲ 7.9%	9.6	▲ 1.1	▲ 10.7%
福岡	28.7	22.4	25.7	▲ 3.0	▲ 10.6%	17.2	▲ 5.3	▲ 23.4%
佐賀	18.1	15.3	15.5	▲ 2.6	▲ 14.4%	12.2	▲ 3.1	▲ 20.2%
長崎	5.5	5.1	3.4	▲ 2.1	▲ 38.3%	3.0	▲ 2.2	▲ 42.2%
熊本	20.9	17.9	15.3	▲ 5.6	▲ 26.8%	12.5	▲ 5.4	▲ 30.2%
大分	9.8	8.4	7.5	▲ 2.3	▲ 23.1%	6.0	▲ 2.4	▲ 28.1%
宮崎	10.7	12.5	8.3	▲ 2.3	▲ 21.9%	7.4	▲ 5.2	▲ 41.2%
鹿児島	12.8	14.1	12.6	▲ 0.3	▲ 2.0%	12.0	▲ 2.1	▲ 15.0%
沖縄	0.7	0.5	0.6	+ 0.0	▲ 6.8%	0.4	▲ 0.1	▲ 20.0%
全国	142万ト	122万ト	123万ト	▲ 20万ト	▲ 13.7%	104万ト	▲ 18万ト	▲ 14.6%

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」

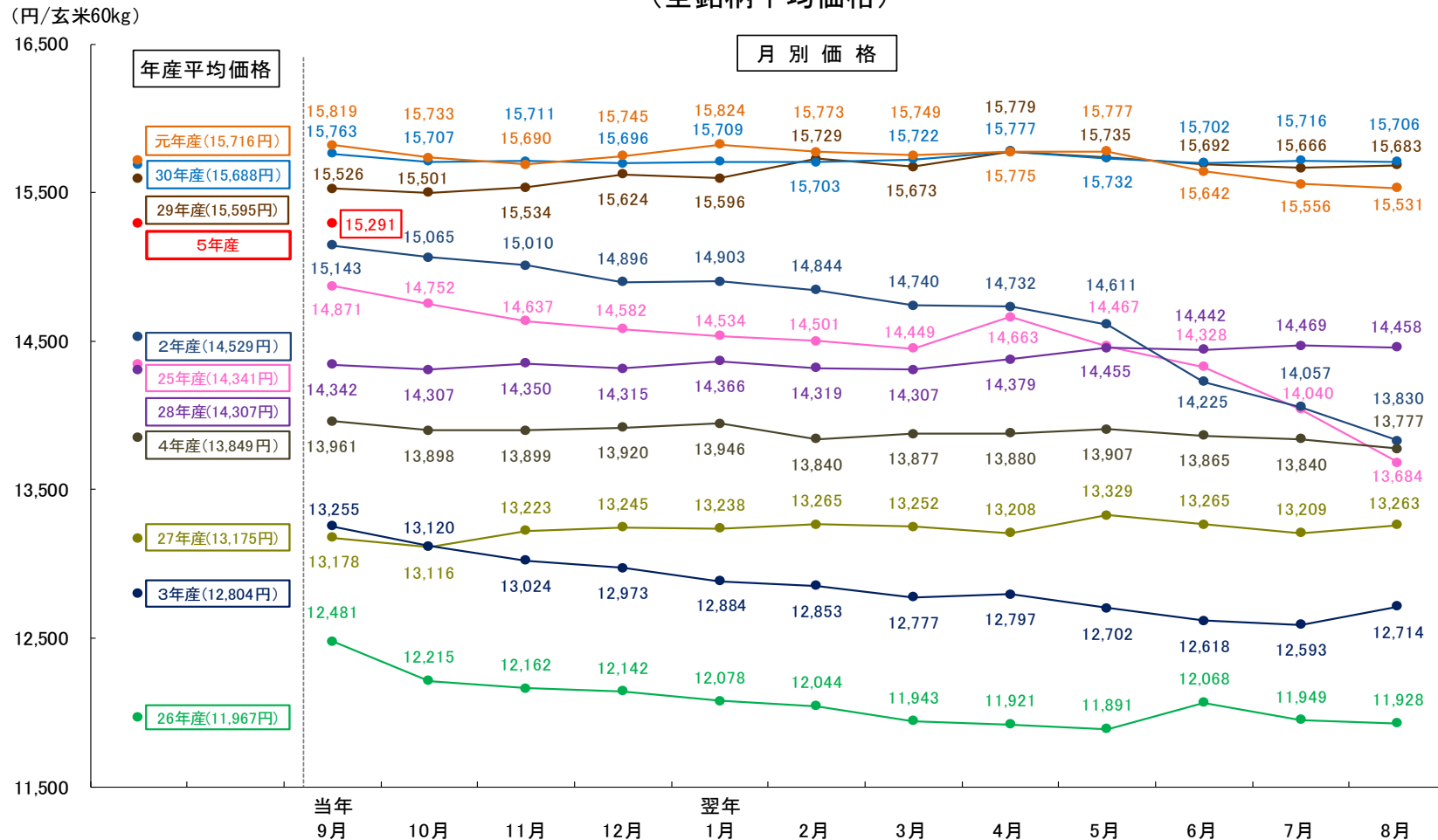
注:1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米を含む。)の月末在庫量(玄米換算)の値である。

2 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の玄米仕入量が500トン以上)、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)である。

相対取引価格の推移(平成25年産～令和5年産)

○ 令和5年産米の令和5年9月の相対取引価格は、全銘柄平均で15,291円/60kgとなり、4年産との年産平均価格差は、前年産の通年平均価格13,849円/60kgより+1,442円/60kgとなっている。

相対取引価格の推移(税込)
(全銘柄平均価格)



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：運賃、包装代、消費税相当額（平成26年3月までは5%、元年9月までは8%、元年10月以降は10%、ただし軽減税率対象は8%）を含む1等米の価格である。

2：グラフ左側の年産平均価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（4年産は出回り～令和5年9月までの速報値）の通年平均価格、右側は月ごとの価格の推移。

令和5年産米の相対取引価格(令和5年9月の年産平均価格)

(単位: 円/玄米60kg (税込))

産地品種銘柄		令和5年産 〔5年9月〕 ①	令和4年産 〔出回り～ 5年9月〕 ②	価格差 ①－②
北海道	ななつぼし	15,336	14,046	+ 1,290
北海道	ゆめぴりか	16,890	15,486	+ 1,404
北海道	きらら397	-	13,510	-
青森	まっしぐら	13,665	12,736	+ 929
青森	つがるロマン	15,003	12,971	+ 2,032
岩手	ひとめぼれ	15,436	13,650	+ 1,786
岩手	あきたこまち	-	13,444	-
岩手	銀河のしずく	15,542	14,120	+ 1,422
宮城	ひとめぼれ	15,073	13,718	+ 1,355
宮城	つや姫	15,923	14,344	+ 1,579
宮城	ササニシキ	15,618	14,111	+ 1,507
秋田	あきたこまち	15,274	13,862	+ 1,412
秋田	ひとめぼれ	14,003	13,042	+ 961
秋田	めんこいな	-	12,815	-
山形	はえぬき	14,225	12,986	+ 1,239
山形	つや姫	18,761	18,504	+ 257
山形	雪若丸	15,661	14,025	+ 1,636
福島	コシヒカリ(中通り)	-	12,740	-
福島	コシヒカリ(会津)	15,308	14,622	+ 686
福島	コシヒカリ(浜通り)	-	13,016	-
福島	ひとめぼれ	14,285	12,550	+ 1,735
福島	天のつば	-	12,290	-
茨城	コシヒカリ	15,258	13,154	+ 2,104
茨城	あきたこまち	14,209	12,296	+ 1,913
茨城	ふくまる	14,524	12,450	+ 2,074
栃木	コシヒカリ	14,709	13,326	+ 1,383
栃木	とちぎの星	-	12,309	-
栃木	あさひの夢	-	12,103	-
群馬	あさひの夢	-	12,730	-
群馬	ゆめまつり	-	12,589	-
埼玉	彩のかがやき	-	12,728	-
埼玉	彩のきずな	-	12,815	-
埼玉	コシヒカリ	-	13,283	-
千葉	コシヒカリ	14,677	12,618	+ 2,059
千葉	ふさこがね	13,838	11,336	+ 2,502
千葉	ふさおとめ	14,056	11,409	+ 2,647
山梨	コシヒカリ	-	17,706	-
長野	コシヒカリ	15,942	14,934	+ 1,008
長野	あきたこまち	15,062	14,129	+ 933
静岡	コシヒカリ	15,343	14,838	+ 505

産地品種銘柄		令和5年産 〔5年9月〕 ①	令和4年産 〔出回り～ 5年9月〕 ②	価格差 ①－②
静岡	きぬむすめ	-	12,846	-
静岡	にこまる	-	-	-
新潟	コシヒカリ(一般)	16,983	16,556	+ 427
新潟	コシヒカリ(魚沼)	20,929	21,019	▲ 90
新潟	コシヒカリ(佐渡)	17,337	17,041	+ 296
新潟	コシヒカリ(岩船)	17,114	16,920	+ 194
新潟	こしいばき	14,696	13,306	+ 1,390
富山	コシヒカリ	16,347	14,946	+ 1,401
富山	てんたかく	15,238	13,332	+ 1,906
石川	コシヒカリ	15,804	14,356	+ 1,448
石川	ゆめみづほ	14,436	12,972	+ 1,464
福井	コシヒカリ	15,228	14,160	+ 1,068
福井	ハチエチゼン	13,711	12,474	+ 1,237
福井	あきさかり	14,033	12,744	+ 1,289
岐阜	ハツシモ	-	13,654	-
岐阜	コシヒカリ	16,034	14,964	+ 1,070
岐阜	ほしじるし	-	13,476	-
愛知	あいちのかおり	-	13,005	-
愛知	コシヒカリ	-	13,741	-
愛知	大地の風	-	12,854	-
三重	コシヒカリ(一般)	14,974	13,199	+ 1,775
三重	コシヒカリ(伊賀)	15,111	13,673	+ 1,438
三重	キヌヒカリ	13,513	12,059	+ 1,454
滋賀	コシヒカリ	15,213	13,941	+ 1,272
滋賀	キヌヒカリ	13,969	12,346	+ 1,623
滋賀	みずかがみ	14,853	13,485	+ 1,368
京都	コシヒカリ	15,371	14,403	+ 968
京都	ヒノヒカリ	-	15,036	-
京都	キヌヒカリ	13,995	12,838	+ 1,157
兵庫	コシヒカリ	17,118	14,790	+ 2,328
兵庫	ヒノヒカリ	-	12,538	-
兵庫	キヌヒカリ	13,641	12,443	+ 1,198
奈良	ヒノヒカリ	-	12,980	-
鳥取	きぬむすめ	14,409	12,687	+ 1,722
鳥取	コシヒカリ	14,921	13,431	+ 1,490
鳥取	ひとめぼれ	14,285	12,817	+ 1,468
島根	きぬむすめ	14,080	13,104	+ 976
島根	コシヒカリ	14,916	14,021	+ 895
島根	つや姫	14,920	13,897	+ 1,023
岡山	アケボノ	-	10,991	-

産地品種銘柄		令和5年産 〔5年9月〕 ①	令和4年産 〔出回り～ 5年9月〕 ②	価格差 ①－②
岡山	きぬむすめ	13,716	12,107	+ 1,609
岡山	コシヒカリ	14,015	12,990	+ 1,025
広島	コシヒカリ	14,563	13,466	+ 1,097
広島	あきさかり	13,613	12,332	+ 1,281
広島	あきろまん	-	12,550	-
山口	コシヒカリ	14,827	14,049	+ 778
山口	ひとめぼれ	14,167	13,081	+ 1,086
山口	きぬむすめ	-	-	-
徳島	コシヒカリ	-	12,961	-
徳島	あきさかり	13,489	11,621	+ 1,868
香川	コシヒカリ	15,325	14,213	+ 1,112
香川	ヒノヒカリ	-	13,457	-
香川	あきさかり	-	-	-
愛媛	コシヒカリ	14,234	13,182	+ 1,052
愛媛	ヒノヒカリ	13,563	12,535	+ 1,028
愛媛	あきたこまち	13,481	12,479	+ 1,002
高知	コシヒカリ	15,146	13,494	+ 1,652
高知	ヒノヒカリ	-	12,522	-
福岡	夢つくし	15,633	14,494	+ 1,139
福岡	ヒノヒカリ	14,794	13,252	+ 1,542
福岡	元気つくし	15,648	14,446	+ 1,202
佐賀	さがびより	-	14,059	-
佐賀	夢しずく	-	13,546	-
佐賀	ヒノヒカリ	-	12,502	-
長崎	にこまる	-	12,940	-
長崎	なつほのか	-	12,690	-
長崎	ヒノヒカリ	-	12,594	-
熊本	ヒノヒカリ	-	12,835	-
熊本	森のくまさん	-	12,507	-
熊本	コシヒカリ	14,858	13,782	+ 1,076
大分	ヒノヒカリ	14,416	13,212	+ 1,204
大分	ひとめぼれ	15,082	13,195	+ 1,887
大分	つや姫	15,182	13,769	+ 1,413
宮崎	コシヒカリ	-	13,815	-
宮崎	ヒノヒカリ	-	14,276	-
鹿児島	ヒノヒカリ	-	13,873	-
鹿児島	あきほなみ	-	14,479	-
鹿児島	コシヒカリ	15,062	14,172	+ 890
全銘柄平均価格		15,291	13,849	+ 1,442

注1: 農林水産省が調査・公表した出回りからの年産平均価格(令和4年産は出回りから5年9月までの速報値、令和5年産は5年9月の速報値)であり、調査対象事業者は、一定規模以上の集荷業者(年間の販売数量5,000トン以上等)。

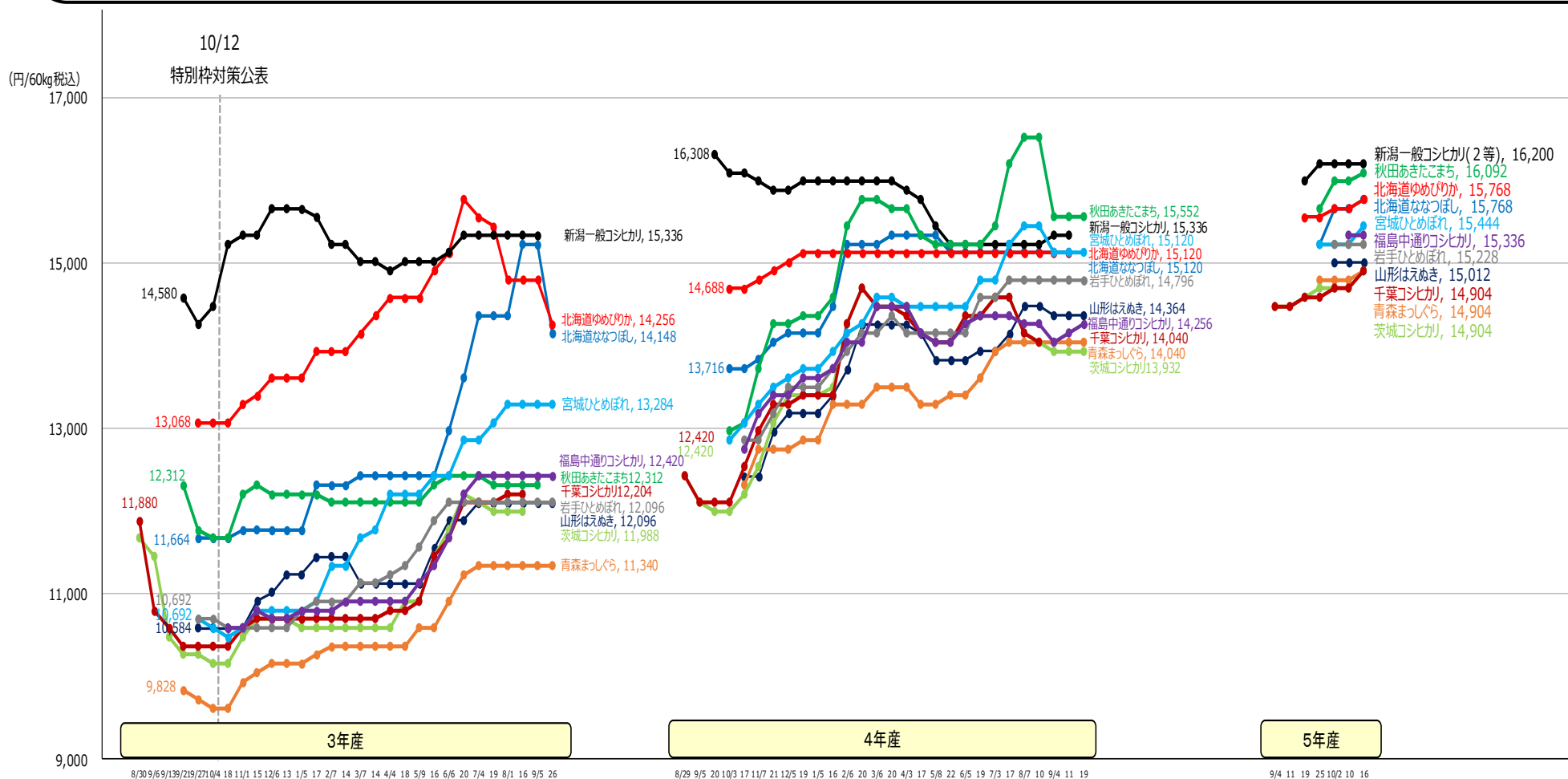
2: 運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。なお、価格に含む消費税は、軽減税率の対象である米穀の包装代などの品代等は8%、運賃等は10%で算定している。

3: 「－」については、当該年産において報告対象とされていない産地品種銘柄又は取引数量の累計が100トン未満であり、公表を行っていないもの。

(参考) 令和3～5年産米のスポット価格の推移(令和5年10月16日時点)

- 令和3年産のスポット価格については、2年産の出来秋に比べ低い水準でスタートしたが、その後回復基調で推移。
- 令和4年産のスポット価格については、比較的安価な銘柄を中心に上昇傾向で推移。
- 令和5年産のスポット価格については、4年産の出来秋に比べ高い水準でスタート。

(参考) スポット取引：主に中小規模の卸売業者間で行う、10トン～数十トン程度の小ロットの売買。

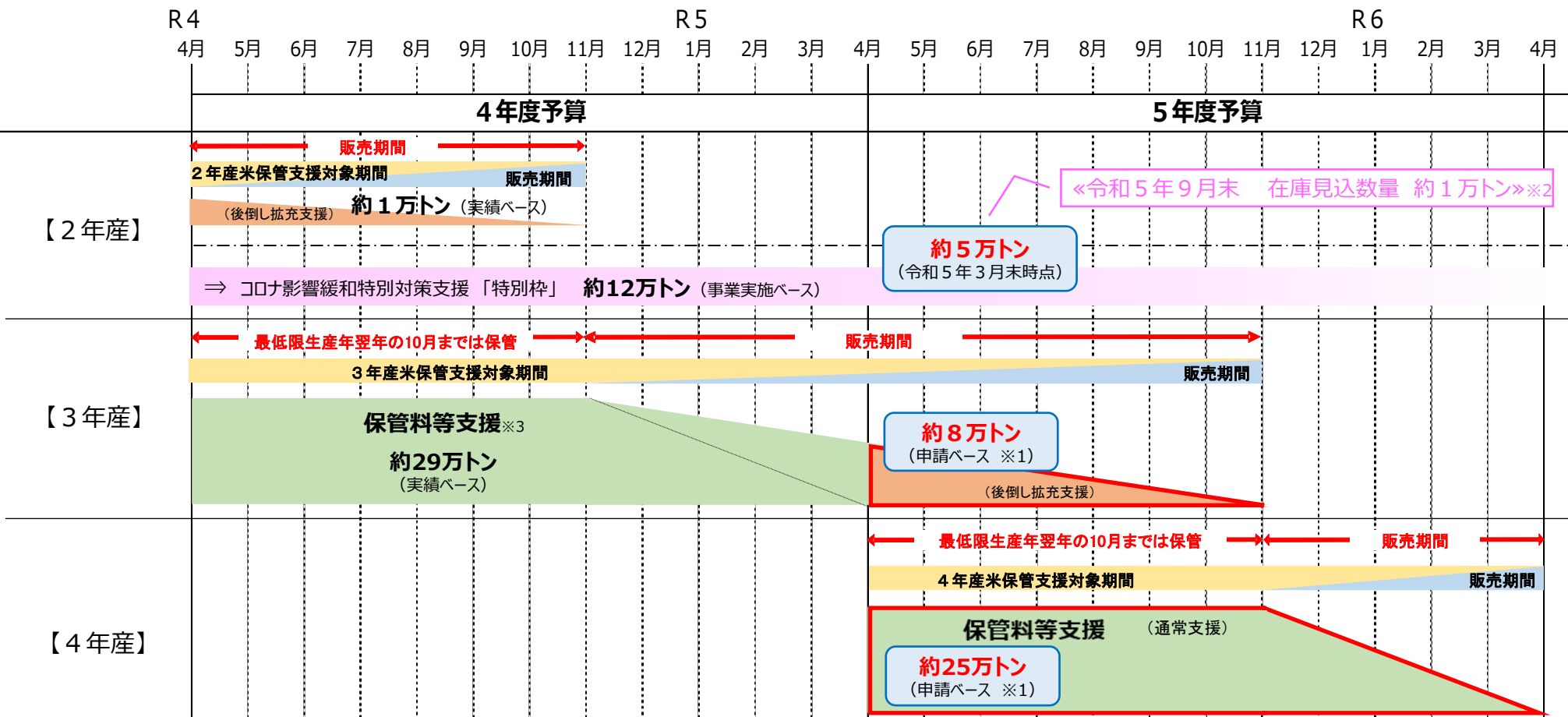


注:スポット価格は、米穀データバンク発行「日刊・米穀市況速報」(関東相場、東京着地基準、下限値、税抜)の価格を農林水産省が税込に加工。

令和4・5年度の保管料等支援のイメージ（「米穀周年供給・需要拡大支援事業」及び「コロナ影響緩和特別対策」）

○ 令和5年度の「米穀周年供給・需要拡大支援事業」の長期計画的な販売の取組について1次公募を実施したところ、計36の事業体から応募があり、令和4年産通常支援は約25万トン、令和3年産後倒し拡充支援は約8万トンの申請があったところ。

【保管経費等の拡充支援イメージ】



※1 3年産の後倒し拡充支援及び4年産通常支援の申請数量は、令和5年4月時点の値。

※2 事業実施主体からの申請報告を取りまとめたもの

※3 保管料等の支援対象経費 保管料：米穀の保管経費
金利：販売時期が遅れることにより増加する概算金支払に係る借入金の支払利息
集約経費：対象米穀の営業倉庫等への集約運送に要する経費

コメ・コメ加工品の輸出実績

品 目 名		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年		(参考) 主な輸出先国・地域	
							1～8月	対前年比		
コメ・コメ加工品	数量 (原料米換算)	32,226トン	35,531トン	36,569トン	45,959トン	53,931トン	36,395トン	+6%	中国 アメリカ 香港 台湾 シンガポール	
		金額	309億円	329億円	347億円	524億円	613億円	367億円		-8%
	コメ (援助米を除く)	数量	13,794トン	17,381トン	19,781トン	22,833トン	28,928トン	22,602トン	+28%	香港 アメリカ シンガポール 台湾 オーストラリア
		金額	38億円	46億円	53億円	59億円	74億円	57億円	+28%	
	米菓 (あられ・せんべい)	数量	4,053トン	4,033トン	4,222トン	5,141トン	4,523トン	2,886トン	+3%	アメリカ 台湾 香港 韓国 シンガポール
		原料米換算	3,445トン	3,428トン	3,589トン	4,370トン	3,845トン	2,453トン	+3%	
		金額	44億円	43億円	45億円	56億円	55億円	37億円	+14%	
	日本酒 (清酒)	数量	25,747 ㌔リットル	24,928 ㌔リットル	21,761 ㌔リットル	32,052 ㌔リットル	35,894 ㌔リットル	19,103 ㌔リットル	-21%	中国 アメリカ 香港 韓国 台湾
		原料米換算	14,502トン	14,041トン	12,257トン	18,054トン	20,218トン	10,760トン	-21%	
		金額	222億円	234億円	241億円	402億円	475億円	266億円	-16%	
	パックご飯等	数量	923トン	1,018トン	1,205トン	1,129トン	1,384トン	971トン	+5%	アメリカ 台湾 香港 韓国 シンガポール
		原料米換算	485トン	535トン	634トン	594トン	727トン	510トン	+5%	
		金額	5億円	5億円	7億円	6億円	8億円	6億円	+17%	
	米粉及び米粉製品 (米粉麺等)	数量		118トン	249トン	88トン	173トン	57トン	-59%	アメリカ タイ ドイツ 台湾 シンガポール
		原料米換算		146トン	308トン	108トン	213トン	70トン	-59%	
		金額		0.3億円	0.7億円	0.6億円	1.0億円	0.5億円	-36%	
コメ・パックご飯・米粉及び米粉製品	数量 (原料米換算)	14,279トン	18,062トン	20,723トン	23,535トン	29,868トン	23,182トン	+27%	香港 アメリカ シンガポール 台湾 オーストラリア	
	金額	42億円	52億円	60億円	66億円	83億円	63億円	+26%		

資料：財務省「貿易統計」（政府による食糧援助を除く。）

注 1：米粉は2019年より、米粉麺等は2020年より貿易統計にて輸出実績を集計・公表。

注 2：米粉及び米粉製品のうち米粉製品の原料米換算は米粉100%として推計。

注 3：「（参考）主な輸出先国・地域」について、「コメ・コメ加工品」、「コメ・パックご飯・米粉及び米粉製品」は2022年の金額上位5か国・地域、各個別品目は2023年1～8月の金額上位5か国・地域を記載。

商業用のコメの輸出数量及び輸出金額の推移

- 2022年のコメの輸出数量は対前年比27%増の28,928トン、輸出金額は対前年比24%増の7,382百万円。

	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		2023年 (1～8月)	
	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
輸出合計	13,794 (+16%)	3,756 (+17%)	17,381 (+26%)	4,620 (+23%)	19,781 (+14%)	5,315 (+15%)	22,833 (+15%)	5,933 (+12%)	28,928 (+27%)	7,382 (+24%)	22,602 (+28%)	5,688 (+28%)
香港	4,690	1,160	5,436	1,372	6,978	1,796	8,938	2,118	9,880	2,344	7,063 (+12%)	1,642 (+13%)
シンガポール	3,161	694	3,879	802	3,696	785	4,972	1,025	5,742	1,201	3,458 (-5%)	707 (-6%)
アメリカ	1,282	404	1,980	543	1,989	565	2,244	625	4,459	1,169	4,014 (+66%)	1,031 (+61%)
台湾	1,173	394	1,262	411	2,004	622	1,907	575	2,532	716	1,823 (+19%)	511 (+18%)
オーストラリア	635	197	770	233	1,074	334	893	283	1,245	390	728 (+4%)	228 (+4%)
中国	524	211	1,007	363	1,002	321	575	219	764	262	345 (-22%)	108 (-25%)
タイ	320	81	578	145	555	145	625	162	1,045	256	802 (+28%)	185 (+20%)
イギリス	422	121	450	131	451	131	332	104	526	162	342 (+1%)	108 (+4%)
カナダ	138	43	158	51	205	62	210	69	382	104	866 (+351%)	216 (+276%)
フランス	78	32	93	40	112	49	173	72	237	93	268 (+99%)	90 (+64%)
ドイツ	92	36	140	52	144	58	185	68	239	81	339 (+116%)	110 (+101%)
マレーシア	221	51	234	59	185	46	146	43	227	64	131 (-17%)	40 (-13%)
その他	1,058	331	1,394	418	1,386	402	1,633	571	1,650	540	2,423	713

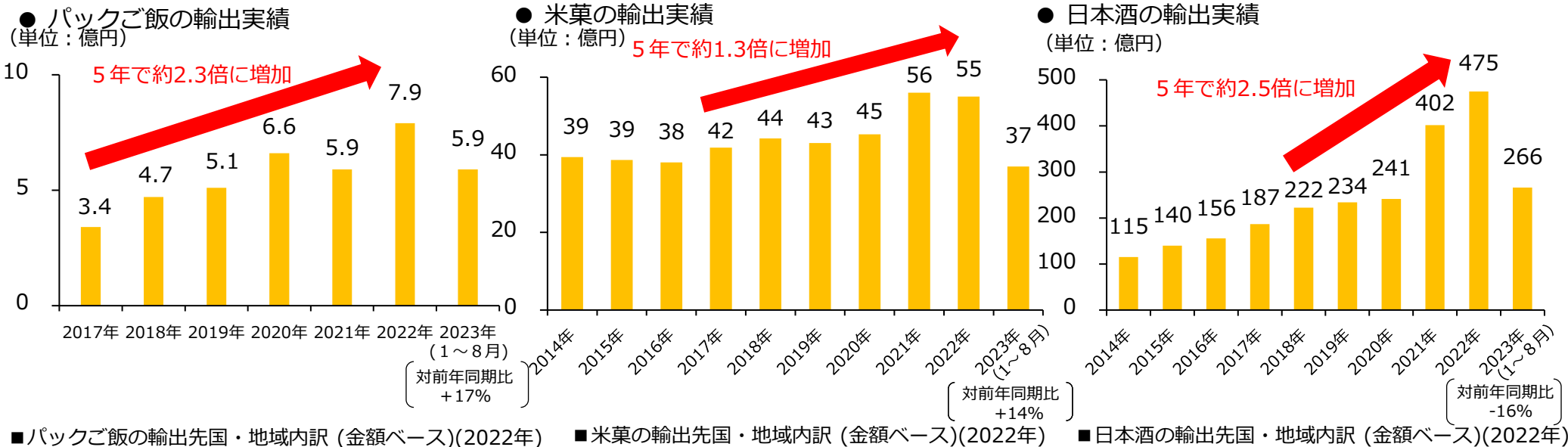
資料：財務省「貿易統計」（政府による食糧援助を除く。）

注：（ ）内は対前年同期増減率である。

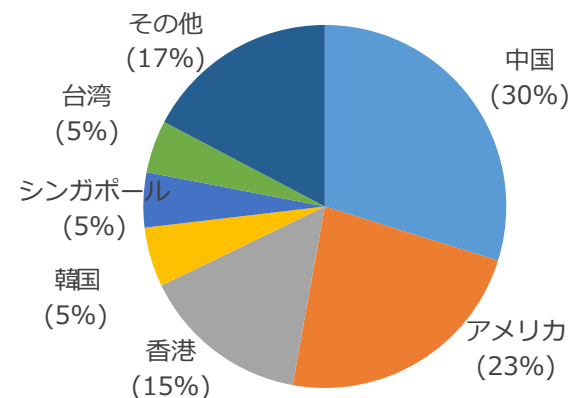
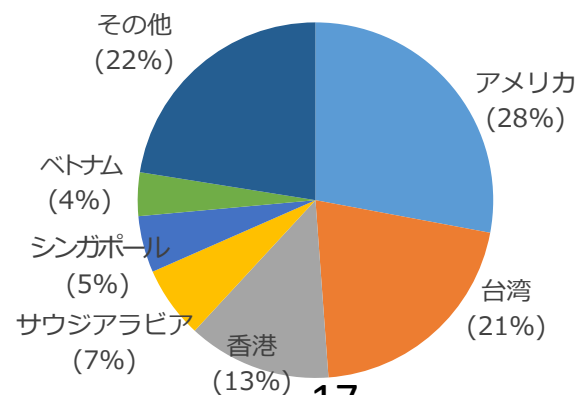
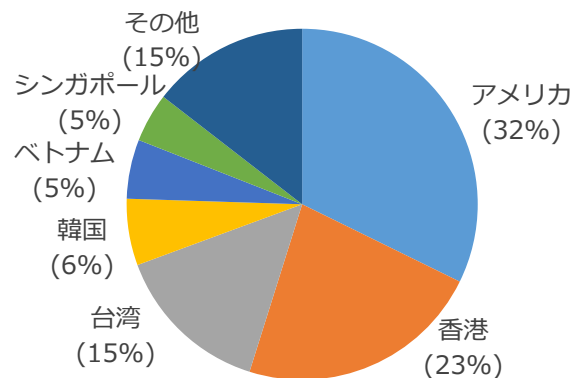
※2020年1月以前はイギリス分が含まれている。

パックご飯・米菓・日本酒の輸出実績の推移

- パックご飯については、輸出事業者からの聞き取りによると、海外の需要先の獲得、製造工場の稼働率向上や新設により輸出を増やしたなどの声も聞かれ、2022年の輸出金額・輸出量はともに増加。
- 米菓については、業界からの聞き取りによると、国内生産シェアの上位にいるメーカーが輸出も含め、長期間生産を中止等していたことが要因の一つとの声も聞かれ、2022年の輸出金額・輸出量はともに減少。
- 日本酒については、中国・アメリカ向け等が増加したこと等から、2022年の輸出金額・輸出量はともに増加。



■ パックご飯の輸出先国・地域内訳 (金額ベース)(2022年) ■ 米菓の輸出先国・地域内訳 (金額ベース)(2022年) ■ 日本酒の輸出先国・地域内訳 (金額ベース)(2022年)



※資料：財務省「貿易統計」
(注) パックご飯等は2017年より貿易統計にて輸出実績を集計・公表。

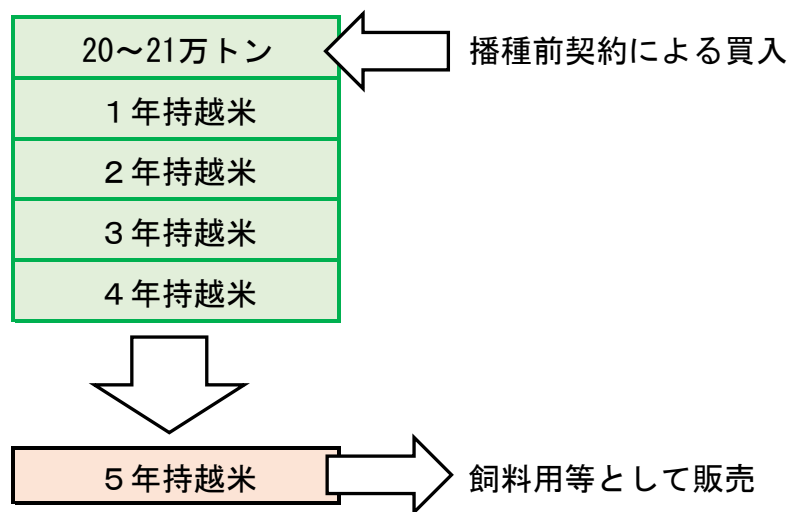
政府備蓄米の運営について

- 政府米の備蓄については、適正備蓄水準を100万トン程度として運用（10年に1度の不作（作況92）や、通常程度の不作（作況94）が2年連続した事態にも国産米をもって対処し得る水準）。
- 備蓄運営については、政府による買入・売渡が市場へ与える影響を避けるため、通常は主食用途に備蓄米の販売を行わない棚上備蓄を実施（備蓄米を供給するのは、大不作などの場合のみ）。
- 基本的な運用としては、適正備蓄水準100万トン程度を前提とし、毎年播種前に20万トン～21万トン（※）買入れ、通常は5年持越米となった段階で、飼料用等として販売。

※ 基本的な買入数量については、従来、毎年20万トン程度とし、CPTPP協定後は豪州枠の輸入量に相当する量を加えた21万トン程度としてきたが、会計検査院の指摘を踏まえ、今後、豪州枠の輸入量に相当する量の買入れは、実際に豪州から輸入される数量に見合った規模となるよう見直し。これに即して備蓄運営が行われれば、基本的な買入数量は20万トン～21万トンとなる。

基本的な政府備蓄米の運用

原則20～21万トン × 5年間程度 → 100万トン程度

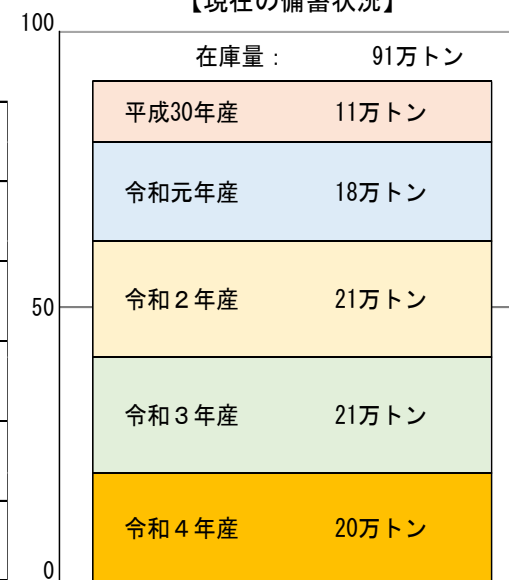


政府備蓄米の現在の在庫状況

【最近の買入数量】

平成30年産	12万トン
令和元年産	18万トン
令和2年産	21万トン
令和3年産	21万トン
令和4年産	20万トン
令和5年産	20万トン（予定）

【現在の備蓄状況】



注：ラウンドの関係で在庫量と内訳が一致しない場合がある。

MA米の輸入状況

- MA米の主な輸入先国は、米国、タイ、豪州、中国など。
- 国別の輸入数量は、国内における加工用の実需者のニーズ、輸出国の生産量及び作付品種の状況、輸出余力等を勘案しながら行う入札の結果として決定される。

○ MA米の輸入数量(輸入先国別及び輸入方式別)

(単位:千玄米トン)

	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
米国	194	233	290	313	339	356	364	361	355	361	362	358	358	430
タイ	107	144	151	152	159	168	146	153	153	185	186	179	243	261
中国	32	40	46	78	86	99	136	112	110	98	84	76	82	72
オーストラリア	87	87	95	109	115	120	110	96	90	20	19	52	—	—
その他	5	6	13	29	24	24	11	44	51	103	116	102	13	6
合計	426	511	596	681	724	767	767	767	759	767	767	767	696	769
(うち一般輸入)	415	488	537	551	591	632	655	710	647	661	655	654	585	658
(うちSBS輸入)※	11	22	55	120	120	120	100	50	100	94	100	100	100	100

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
米国	358	356	358	362	359	359	359	376	365	359	360	360	345	236
タイ	332	345	241	281	351	332	344	375	264	316	306	322	314	398
中国	71	19	56	46	1	55	56	3	56	69	83	70	69	81
オーストラリア	—	40	71	64	41	14	1	7	74	14	0	—	27	40
その他	5	6	40	13	15	6	6	7	8	8	17	15	12	11
合計	767	767	767	767	767	767	767	767	767	767	767	767	767	767
(うち一般輸入)	655	725	658	656	700	754	734	685	655	701	681	699	743	751
(うちSBS輸入)※	100	37	100	100	61	12	29	73	100	59	77	60	21	14

※SBS輸入数量の単位は千実トン。

注1:各年度の輸入契約数量の推移。

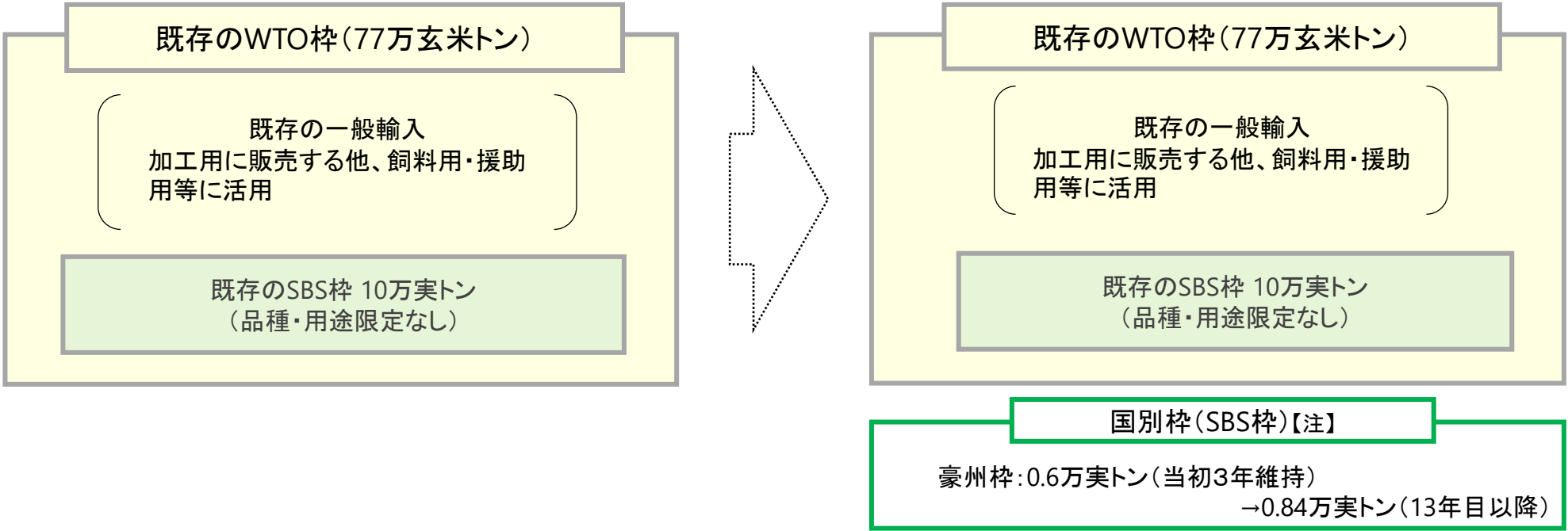
注2:千実トンと千玄米トンのため合計は一致しない場合がある。

注3:ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(参考) 枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

TPP11におけるコメの豪州枠の運用

- TPP11においては、現行の国家貿易制度と、枠外税率(コメの場合341円/kg)を維持した上で、豪州にSBS方式の国別枠を設定。(コメと米粉等の国貿品目を対象として一体的に運用。)
- 国別枠の数量は、当初3年は6,000実トン、13年目以降は8,400実トン。入札は、毎年度、5月から2ヶ月ごとに年6回実施する。



注:円滑な入札手続を行うため、透明性向上の観点から、SBSの運用方法の一部について、技術的な変更を実施。

○ TPP11豪州枠の年間枠数量及び輸入数量

(単位:実トン)

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030以降
枠数量 (実トン)	2,000(※)	6,000	6,000	6,240	6,480	6,720	6,960	7,200	7,440	7,680	7,920	8,160	8,400
輸入数量	1,120	3,459	595	620	520	1,720 (9月末時点)							

※協定が2018年12月に発効したため、2018年度は6,000実トンを年度の残余の月数で按分した数量
注:輸入数量は各年度の輸入契約数量の推移。

<対策のポイント>

食料自給率・自給力の向上に資する**麦、大豆、米粉用米等の戦略作物の本作化**とともに、地域の特色をいかした**魅力的な産地づくり、産地と実需者との連携に基づいた低コスト生産の取組、畑地化による高収益作物等の定着等**を支援します。

<政策目標>

○ 麦・大豆等の作付面積を拡大（麦30.7万ha、大豆17万ha、飼料用米9.7万ha〔令和12年度まで〕）

○ 飼料用米、米粉用米の生産を拡大（飼料用米：70万t、米粉用米：13万t〔令和12年度まで〕）

○ 実需者との結びつきの下で、需要に応じた生産を行う産地の育成・強化

<事業の内容>

<事業イメージ>

- 1. 戦略作物助成**

水田を活用して、**麦、大豆、飼料作物、WCS用稲、加工用米、飼料用米、米粉用米を生産する農業者を支援**します。
- 2. 産地交付金**

「水田収益力強化ビジョン」に基づく、地域の特色をいかした**魅力的な産地づくりに向けた取組を支援**します。
- 3. 都道府県連携型助成**

都道府県が**転換作物を生産する農業者を独自に支援**する場合に、農業者ごとの前年度からの転換拡大面積に応じて、都道府県の支援単価と同額（上限：0.5万円/10a）で**国が追加的に支援**します。
- 4. コメ新市場開拓等促進事業** **11,000（11,000）百万円**

産地と実需者との連携の下、新市場開拓用米等の低コスト生産等の取組を行う農業者を支援します。
- 5. 畑地化促進助成** **2,215（2,215）百万円**

水田を畑地化し、高収益作物やその他の畑作物の定着等を図る取組等を支援します。

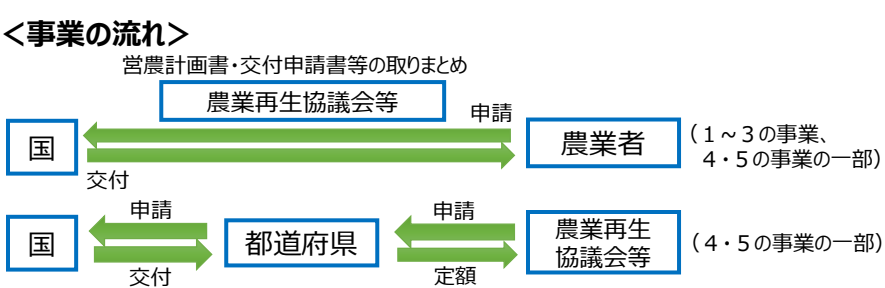
戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物	3.5万円/10a※1
WCS用稲	8万円/10a
加工用米	2万円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、5.5万円～10.5万円/10a※2

<交付対象水田>

- ・ たん水設備（畦畔等）や用水路等を有しない農地は交付対象外。
- ・ 5年間で一度も水張り（水稻作付）が行われない農地は令和9年度以降は交付対象水田としない。
- ・ 水張りは、水稻作付けにより確認することを基本とする。ただし、①湛水管理を1か月以上行い、②連作障害による収量低下が発生していない場合は、水張りを行ったものとみなす。

※1：多年生牧草について、収穫のみを行う年は1万円/10a
※2：飼料用米の一般品種について、令和6年度については標準単価7.5万円/10a（5.5～9.5万円/10a）
今後、標準単価を段階的に引き下げ、令和8年度において標準単価6.5万円/10a（5.5～7.5万円/10a）とする



産地交付金

国 → 資金枠を配分※3 → 都道府県

都道府県 → 資金枠の範囲内で都道府県が助成内容を設定

都道府県 → 資金枠を配分 → 地域協議会

地域協議会 → 地域協議会ごとの助成内容の設定も可能

○ 当年産の以下の取組に応じて資金枠を追加配分

取組内容	配分単価
そば・なたね、新市場開拓用米、地力増進作物の作付け（基幹作のみ）	2万円/10a
新市場開拓用米の複数年契約	1万円/10a

※3：作付転換の実績や計画等に基づき配分

- 畑地化促進助成※4**

① 畑地化支援

② 定着促進支援（①とセット）

③ 産地づくり体制構築等支援

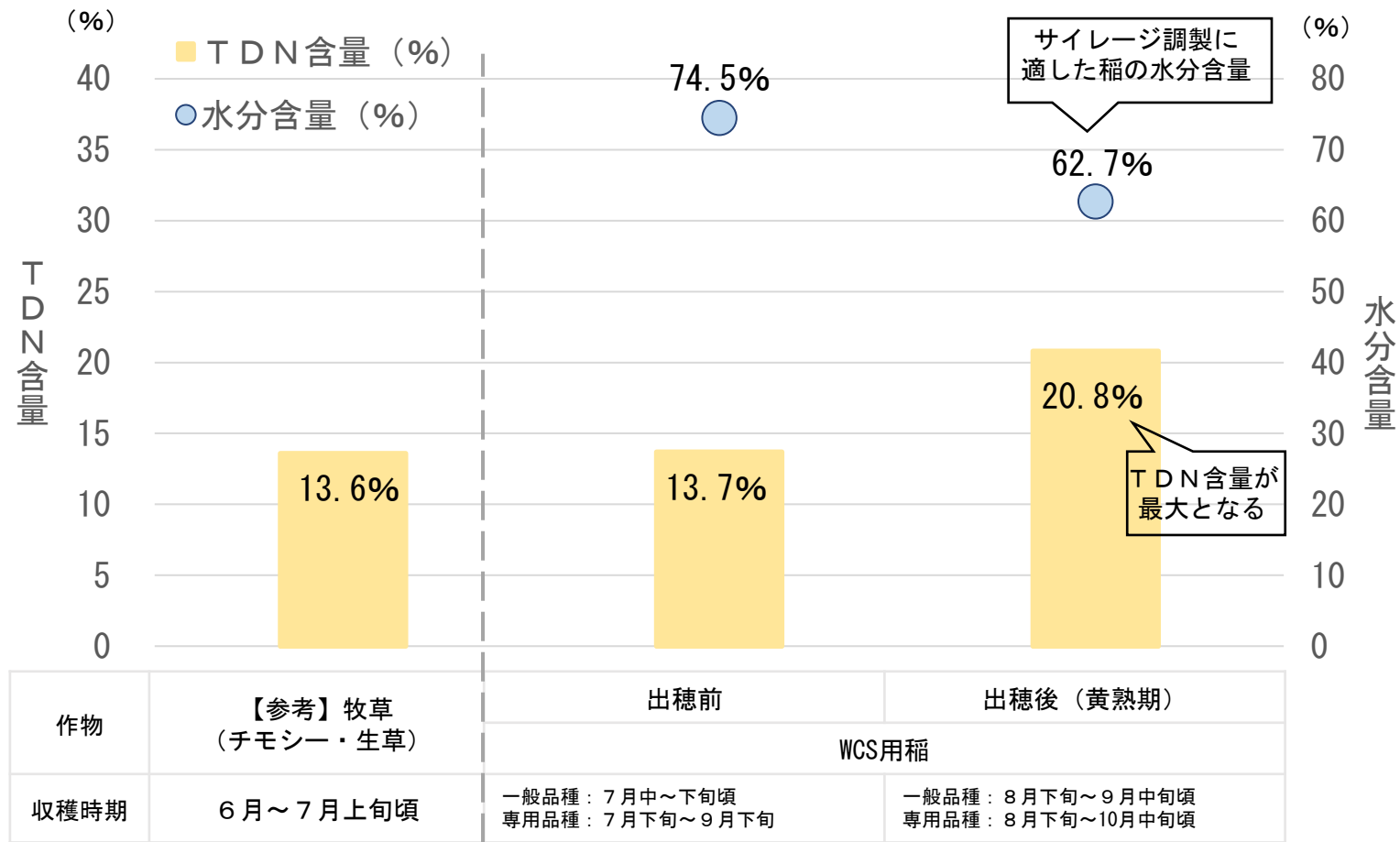
④ 子実用とうもろこし支援

※4：事業の詳細は予算編成過程で検討

(参考) WCS用稲(出穂前・出穂後)と牧草のTDN含量比較

※令和5年7月31日食糧部会における平田委員御指摘事項

- 出穂前のWCS用稲におけるTDN含量は、出穂後より低い水準であり、牧草（チモシー）と同程度。
- また、サイレージ調製に適した稲の水分含量は65%前後とされているが、出穂前に収穫をした場合、水分含量が高くなり、良質なサイレージを作り難くなる。



【出典】TDN含量・水分含量：日本標準飼料成分表（中央畜産会）より引用（牧草：チモシー（1番草・出穂期）、WCS用稲：イネ（出穂前、黄熟期））
収穫時期（牧草）：（一社）日本草地畜産種子協会HPより引用
収穫時期（WCS用稲）：稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル第7版（（一社）日本草地畜産種子協会）、飼料作物栽培基準（茨城県農業総合センター）を参考
（※出穂前については収穫時期より40日程度前として推計（WCS用稲（出穂後）の収穫時期：出穂後の30日以降））